

浦上キリシタン流配 150年(2018~23)
ニュースレター

浦上キリシタン流配地
松江に新たな発見

山陰の地・島根県松江市にも、明治の初めの浦上四番崩れ流配の足跡はくっきりと残っていました。松江には1868年の第一次流配（萩、津和野、福山）の後の第二次流配で1870年（明治2年）善光寺（松江市浜乃木／乃木駅近く）にキリシタン86名が流されたことは分かっていますが、地元の色々な事情により善光寺への教会からの直接の接触は出来ないままでした。その中で、最近になって下記のような朗報が松江教会から広島教区本部にもたらされました。時あたかも広島教区では5月の津和野乙女峠まつりから「浦上キリシタン流配150年」の取組みを始めようとするその時の知らせに接して、私たちは何か主の導きを感じたものです。

「信仰者の足跡」

カトリック松江教会 一信徒

1月初めの或る夜、私は夢を見ました。それは松江教会の長老ともいべきI様が「Tさん、殉巡ネットを頼むな…」と。きっと私の中で今年が浦上信徒流配150年を迎える年であり、又その朗読劇を準備されている方々の知らせ等々が心の中に有ったからだと思います。その夢に動かされ、松江に流配され収容された時宗・善光寺（写真①）のご住職様に「今年が広島教区へ流配されてから150年を迎える年にあたる事、そして私たちはその信仰の先人たちの足跡を訪ね、お寺様のお話もお伺いしたい」と伝えましたら、快く時間を取って下さいました。

1月15日に松江教会主任の後藤神父様と一緒に善光寺をお訪ねし、色々と貴重なお話をお伺いすることが出来ました。住職から「当時のことについては、先代の住職からはあまり聞いていないので、分からないが…」と言われましたが、善光寺で亡くなられた四名の方の過去帳（写真②）を見せて下さいました。そこには信仰の為に、苦しい苦難の「旅」を強いられた人々の足跡が刻まれていました。私の心の中に、深く静かな空気が流れていきました。この地で亡くなられた方々の墓跡はまだ分かりませんし、今回の四名以外の方の記載も残っていませんでした。過去帳に有りました四名は（仏式の）戒名での記載ゆえ、お名前は分か

りませんが、戒名には名前の一文字を入れるのでは？…。また住所から判明出来るのでは？…等々も思われます。なお、亡くなられたのは十名程とのことですが、善光寺が火災に遭った時に一部が焼失し、四名だけ現在残っているそうです。

これを機に、彼ら浦上のキリシタンたちが神への篤い信仰心の姿を松江に残して下さったこの遺産をどの様に今の私たちが受け継いでいくのか、大きな課題ともなりました。

<後日談> 殉巡ネットから長崎の関係者に問合せし、3名の氏名が判明しました。山口寅三郎(2才)、前田利助、前田辰五郎の3名、1名はなお未確認です。皆さん長崎・浦上の岡地区の出身とのこと。奉行所の記録等と突き合わせた結果の様です。長崎の方とも喜びを共有できました。

… … … … … … … … …

▼「浦上四番崩れ流配地連絡会」

5月2日(水)

乙女峠祭りに先がけ、流配地22箇所の関係者が山口市に初めて集まり、各地の状況をお話して頂きます。翌日3日(祝)は津和野の「乙女峠まつり」に揃って参加し、「浦上キリシタン流配150年」の開始式に臨む予定です。

▼今秋、福山教会で殉教祭／9月30日(日)

「流配150年記念講演会と福山市内巡礼」

午前中／古巣 馨神父(長崎純心大学教授)に聞く、浦上四番崩れのお話。昼食後、市内4か所の流配所を巡礼の予定。

▼「四番崩れ解説パネル」

山口県内・広島県内の教会でも巡回展示にご参加を！

津和野、山口、萩、岡山県下で実施。3月～4月にかけては鳥取県、島根県と巡回中で、乙女峠祭りでは再度津和野教会で展示します。その後山口県、広島県と順次巡回展示出来たらと願っています。希望教会は肥塚神父(光教会)まで。

▼「浦上キリシタン流配／朗読劇」制作中！

朗読で学ぶ浦上キリシタンの流配のお話です。ご期待ください。なお、流配地教会に限らず、各地でも上演をして頂ければと思っています。



写真① 善光寺



写真② 過去帳／下半分に長崎人の文字が。他の白抜きは情報保護の為、白紙で伏せて資料提供。